

# カタクチイワシ産卵特性の沿岸沖合間の差について

資源評価部 生態特性研究室

## 背景・目的

1. 多獲性小型浮魚類は資源増大に伴い、沖合域へ分布域を拡大することが知られている。
2. カタクチイワシについては、その産卵生態特性等に沿岸-沖合差が存在するとの指摘がある。
3. 近年の文献から、カタクチイワシのバッチ産卵数(1回当たりの産卵数)と産卵頻度等のデータを表面水温と併せて収集し、沿岸-沖合間比較を行った。

## 成果

1. 単位体重当たりバッチ産卵数は生殖腺重量指数及び表面水温 と正の関係にあり、この関係には明瞭な沿岸群-沖合群間の差が認められた(図1)。
2. 産卵頻度のレベル自体に沿岸群-沖合群間の差は無かった。しかしながら、産卵頻度と表面水温の関係は両群間で異なっており、同水温ならば沖合群の方が産卵頻度が高かった(図2)。
3. 以上より、カタクチイワシのバッチ産卵数及び産卵頻度の水温に対する関係には、沿岸群-沖合群間で明瞭な差が認められた。

## 波及効果

1. 沿岸群と沖合群に対して個別の式を適用して産卵生態に関するパラメータを求めることによって、沖合資源評価の精度向上が期待される。

## 連絡先

高須賀 明典 TEL: 045-788-7636

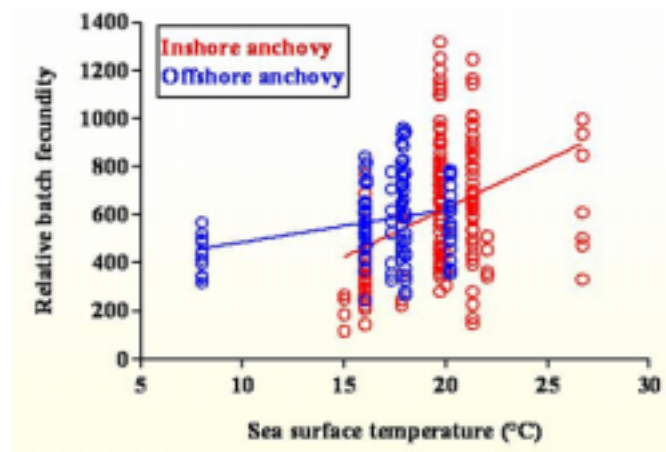


図1 単位体重当たりバッチ産卵数と水温との関係  
(赤:沿岸群 青:沖合群)

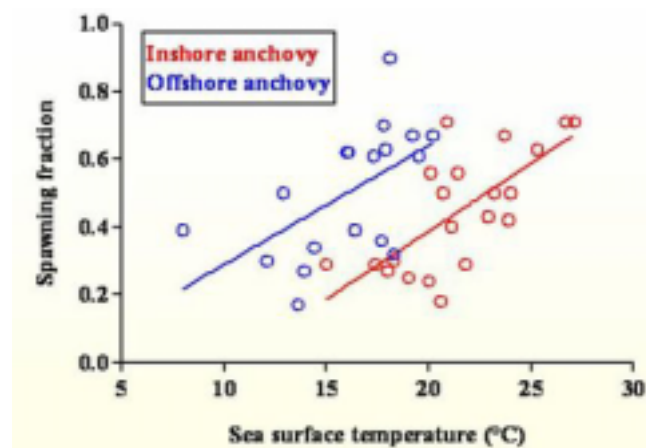


図2 産卵頻度と水温との関係  
(赤:沿岸群 青:沖合群)